

# 平成25年度事業報告書

ヘルパーステーション大慈

## 1. <平成25年度法人ビジョン>

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

## 2. <基本方針>

介護を提供するプロとしての意識を十分に持ち、要介護者等の心身の特性を踏まえて、その有する能力に応じ、自立した“安心・安全な生活”を営むことができるよう生活全般に渡る援助を行う。関係市町村、地域の保険・医療・福祉サービス機関との綿密な連携を図り、総合的なサービスの提供に努める。

## 3. <目標>

### ①ゲスト満足の向上を図る。

#### A) 自立につながる基本的ケアの実施

##### ◆食事サービス

ゲストの身体的機能、健康状態に合わせた食事を提供する。

- ・対象ゲストの食事摂取状況をアセスメントし評価を行っていく。
- ・平均水分摂取量 1500ml 達成させる。  
(対象ゲストに合わせた水分摂取プランを作成、検証していく。)
- ・口腔内清潔、義歯装着、口腔機能を維持、向上させる。  
(利用者話し合いを利用し、1回/半年に利用者への口腔ケアのミニ研修を行う。)

食事に関して、特に介護度の高いゲストの食事量・嚥下状態の観察を行い、状態に応じてきめ細かく提供出来た。看取り期のゲストにも無理をせず、食べられる時に嗜好品を提供した。水分量 1500ml では、後半になってほぼ達成出来、現在は安定している。水分担当が諦めずに嗜好を探り、方法など思考錯誤しながら頑張った成果と考える。チェック表の洩れ、水分提供出来なかったが余り気にしていないなど、他職員との意識のズレも途中で見られた。職員責任の範囲をはっきりさせた事で、徐々に水分量アップに繋がった。口腔ケアでは介助の際、義歯洗浄だけで口腔ケアが出来ていない事も判明した。口腔ケアを何のためにするのか理解がなかったこと、時間までに終わらせる事を優先させた結果である。現在は改善している。今年度は歯科衛生士からゲストに向けてミニ研修を依頼し実施出来た。次年度は職員向けに依頼する予定である。

##### ◆入浴サービス

更衣や入浴中のプライバシーを確保し、くつろいだ雰囲気の中で楽しく安全に入浴できるように支援を行う。

- ・入浴メンバーの見直しを適宜行う。
- ・四季折々の変わり湯を提供する。(ポスター等で知らせる)

重度のゲストに対しては湯船に入り難いこともあり、デイ入浴サービスを利用して頂いている。時間的に余裕が持てる事で、グループ分けをし45分間ゆっくり入浴して頂けるようになった。その他、季節に合った変わり湯(菖蒲湯や柚子湯など)を月に2回実施。花の写真や壁画など、楽しく入浴して頂けるように工夫している。

#### ◆排泄介助

排泄介助は定時の他に個々のサイクルに合わせた随時の支援を行う。またゲストの状況に合わせてパット外しを検討、自立につなげていく。介助にあたってはプライバシーに留意する。

- ・排泄の自立を目指す。

ゲストの状況に応じてパッドなど変更している。排便に関してはゲスト個々のサイクルを把握し、3日無排便で医務と連携を取り対応している。朝便器に座る習慣を定着させていきたい。プライバシーに関して、吉祥園は個室であることから特に問題は見られない。尿失禁について、ナースコールを押し介助を希望されるゲストに尿失禁はないが、定時にお連れするゲストに対しては、一度失禁になると次も失禁となる事が多い。失禁をなくすというこだわりのある仕事をしていきたい。今季は大幅にトイレへお連れするゲストを減らすことが出来た。生活リハにより、バルーンを外せたゲスト1名、排泄の完全自立ゲスト4名、夜間帯のみ見守りとなったゲスト1名と、自立されていくゲストが少しずつ増えてきている。自立に向けて引き続き頑張っていきたい。

#### ◆健康維持

ゲスト一人一人が心身共に健康で、出来る限り自立した生活が送れるよう、残存機能の維持に努める。

- ・運動量（生活リハビリ含む）アップさせる。
- ・自然療法の啓発（食事・水分・排泄・運動量などの強化と医薬品低減を目指す。）
- ・レクリエーション、クラブ、役割などの充実。

運動に関しては、週2回外部講師による体操の参加率が上がった。おやつ前の体操の参加率も高いが、廊下を散歩されるゲストは減ってきている。多数のゲストが一同に運動出来る時間でもあり、しっかり声掛けを行っていききたい。役割についてはゲストの状態に合わせたお手伝いなど、現在8名のゲストに留まっているが、出来る事を自発的にしてもらえるように継続して声を掛けていきたい。自然療法の啓発に関しても同様、入居者話し合いを利用し運動・水分・食事などの大切さを少しでも意識していただけるよう続けていく。

#### ◆環境整備

ゲストが安心して生活できるように転倒防止、居室の整理・整頓、園内の安全管理を行い、環境整備に努める。

- ・5S推進プロジェクト
- ・ゲスト同士の活動の場、趣味的活動の場（食堂、廊下など）を作る。

5Sに関して、フロア内公共部分の清潔は、ほぼ維持出来ている。要介護ゲスト居室の清潔も維持出来ている。趣味的活動の場はA棟談話室に作ったが、利用されるゲストは限られている。食堂のテレビは映画鑑賞やカラオケで使用する頻度は高い。後部座席の方からも見やすいように、テレビの位置を高くする予定である。

#### ②スタッフ満足の向上を図る。（吉祥園に準じる）

- A) 5S運動の推進
- B) チーム力の向上

吉祥園報告書に記載したように、チーム力の向上ではあまり成果が見られなかった。経験浅い職員が多いこともあり、接遇面、介護の知識、コミュニケーションなど全般的に技術が低い事が上げられる。職員の異動に伴い、新人3名募集する予定。もう一度人材の育成に取り組んでいきたい。

4. 《事業の実施地域》  
養護老人ホーム大慈吉祥園内とする。
5. 《相談苦情の対応》  
大慈吉祥園に準ずる。
6. 《総括》

この1年を振り返ると業務としての効率を優先していたように感じる。担当ゲストと関わる時間を取るために、昨年よりシルバー人材派遣を導入し、職員の業務を削減した。1ヶ月に一度フリーの時間を設けたが何をしたら良いか分からず、結局普段と同じ業務に入っている職員も多かった。細かく説明出来ていなかった事が原因であるが、自分で考え行動していくには早いことを実感した。じっくり育成出来なかった事、目標を個々の職員に合わせられなかったことなど責任を痛感している。

来期は育成面で、基本（特に接遇）から丁寧に指導し、ゲストとのコミュニケーションが取れるように、内部ミニ研修を実施し、外部研修にもどんどん参加してもらいたい。

ケアプランに関してはゲストのニーズが十分反映出来ていないように感じる。現場のヘルパーが一番ゲストに近い所にいるが、信頼関係を築くまでに至っていない。当然ケアマネ、担当者との話合いも薄い。経験が浅く、方法がわからない事が大きい原因である。ケアプランの把握、情報の共有、ケアプランの総括の記載の仕方を含め、基本的なことを職員間で話し合っていきたい。まず、見本を早急に作ることから始める。